

一年を振り返って

指導委員長 中村和義

最近の登山ブームの影響で、高齢者から若者まで幅広い世代にとって山は非常に親しみやすい場所になっています。その反面、経験や技術のない登山者も増えていると感じた一年でした。7月下旬、知り合いの3人が日帰りで山に登り(登山計画書提出)、夕方になっても帰ってこないと連絡がありました。結果的には無事でしたが、一步間違えれば遭難の危険性がある事案でした。2016年7月から登山計画書の提出が義務化されましたが、出せば安心というものではありません。技術や体力、判断力が伴わない登山は危険です。

判断力には、現場での判断力と登山前の判断力があります。経験不足の若い人は現場でトラブルが遭った際の適応力に欠けます。一方ベテランは、登山前に自身の体力で踏破できるかを冷静に判断してほしいと思います。

現在は天気も現在地もスマートフォンにより確実な情報が得られますし、ルートごとに必要な体力、技術を評価したグレーディングは自分に合った山選びの参考になり判断しやすくなっています。十分な登山準備と登山届の提出、体力や経験に合ったルートの選定、以上の約束事は必ず守るように指導する必要があります。登山届は遭難時に素早い救出に繋がります。しかし最後は現場での登山者の判断です。自然は常に命の危険と隣り合わせ、慎重な行動を願わずにはいられません。

指導員会も今年度も新たな仲間が加わりました。夢や希望を持たない活動は寂しいものですが、目を下に向け、若い指導員が活躍できる場を作り、底辺を安定させることが重要だと考えます。

このような状況の中、指導委員会は一般登山者に正しい登山技術の普及を進めながら、会員の技術研磨、遭難防止のお役にたてたらと思います。皆様の変わらないご協力をお願いいたします。

平成29年年度事業報告

昨年度は5/13～14に第20回雪上交流会in針ノ木を開催。天候により1日みの開催になりましたが、39名の協会員が大沢出合い下部にて雪上歩行を中心に、雪質と斜度に対応出来る歩行テクニックや支点構築～ロープワークを実践しました。指導員検定を受ける事前講習会も行い、雪上技術全般の指導法を確認していました。

翌々週となる5/27～28で第57回指導員検定会を実施しました。3名の受験者があり、1名が山岳専門科目に合格し、第3回の理事会で承認されました。

9/30～10/1に第31回長山協キャンプin小川山を開催。33名の協会員が参加し、遭対委員会との共催による懸垂下降時のバックアップ方法について全体協議をし意見交換の後、登攀研修、検定希望者の事前講習、初心者講習の班に分け、各自日頃感じている疑問点を解決しあえる研修会になりました。またスポーツクライミング指導員養成講習会が東京で開催され2名が参加しました。今年に入り1/20～21には第6回目となるin八ヶ岳を実施。楽しい交流会・講習会となりました。氷壁登攀・初級者・事前講習の各班でテーマを決め熱心な講習会もできました。

その他として山岳センターの講習会への講師派遣。若い指導員にも講師をお願いし経験を積んでもらうことができました。またセンターのリーダーコース卒業生が協会加盟山岳会に入会する事例も増え、その後山を継続できる環境も整い、長野県山岳協会の発展にも役立っていると感じています。今年度も会員の皆様の協力を得ながら安全で楽しい講習会、交流会を続けて参ります。

平成29年度実施事業

- ① 指導員の養成
- ② 第20回雪上交流会in針ノ木 H29. 5. 13～14 参加者 39名(指導員9)
- ③ 第57回指導員検定会 H29. 5. 27～28 1名合格
山岳専門科目合格 山岳: 名坂 友宏 (マウントブーリー)
- ④ 第31回長山協キャンプin小川山 H29. 9. 30～10. 1 参加者 33名(指導員21)
指導委員会、遭対委員会合同実施 キャンプ場周辺、ガマスラブ周辺
- ⑤ 第6回ウインターミーティングin八ヶ岳 H30. 1. 20～21 参加者43名(指導員19)
行者小屋泊 ジョーゴ沢 赤岳鉱泉周辺にて講習
- ⑥ 支部主催登山教室への協力
- ⑦ 指導員研修会、養成講座の開催
- ⑧ 山岳センター講師派遣
- ⑨ 更新登録手続き
- ⑩ スポーツクライミング指導員養成講習 (東京)
H29年12月2～3日、9～10日 協会から2名参加

その他

・退会者(2/24現在)
5名

・入会者(2/10現在)
3名

★平成29年度指導委員会役割分担

任 務	氏 名	所 属
委員長	中村和義	L&M
副委員長	傘木 靖	飯田山岳会
総務・会計	佐伯和人	山幸グループ
総務・総務	市川謙	松本山登会
検定	古畠俊彦	GDM
研修	傘木 靖	飯田山岳会
研究	松山 信	マウントブーリー